

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

きょう ねんせい ねんせい どうこう
今日は2年生と12年生が登校し、これですべての学年が一度は登校したことになります。これから順調に

ぶんさんどうこう すす いの
分散登校が進んでいきますようにと祈るばかりです。

きょう はなし すいようび ちい できごと しごと お ほんかんこうしゃ で しょうがっこうこうしゃ お
今日お話ししたいのは、水曜日の小さな出来事です。お仕事を終えて本館校舎を出ると、小学校校舎の向こ

がわ にし そら ま か そ き が つ き ま し た 。 ま か こ あか
う側、西の空が真っ赤に染まっているのに気がつきました。真っ赤といっても濃い赤ではなく、オレンジ色が

か っ た と て も し ん び て き あか おも ひ と り こ え だ み み
かったとても神秘的な赤です。思わず「わーっ」と一人で声を出してしまいました。見る見るうちにその色は

うす しゅんかん た あ う つ く ゆうや み かんどう
薄くなっていきましたので、ちょうどよい瞬間に立ち会ったのかもしれませんが。美しい夕焼けを見て感動し、

しあわ き も いちにち お できごと
幸せな気持ちになりました。一日の終わりに、ほっとさせられた出来事でした。

う つ く み かんどう き も
美しいものを見て感動する気持ち、これは「Sense of Wonder」ということができます。「沈黙の春」とい

ほん にほん わだい かた し
う本で日本でも話題になったレイチェル・カーソンという方を知っていますか。そのレイチェル・カーソンの

ちよしよ かみとおけいこやく ひ よる ひさ
著書「The Sense of Wonder センス・オブ・ワンダー」(上遠桂子訳)のことを、その日の夜は久しぶりに

おも だ ほん さいご の しぜん お
思い出しました。その本の最後でレイチェル・カーソンは述べています。「自然にふれるという終わりのないよ

ろこびは、け っ て し が く し ゃ だ い ち う み そら す おどろ み いのち
ろこびは、けって科学者だけのものではありません。大地と海と空、そして、そこに住む驚きに満ちた生命

かがや み ひと て
の輝きのもとに身をおくすべての人が手にいられるものなのです。」

とうげこうちゅう しょうがくせい み せかい しんせん おどろ かんどう み あふ おし
登下校中の小学生を見ていると、どれほどこの世界は新鮮で驚きと感動に満ち溢れていることが、教えら

れることが度々あります。ねんれい あ おどろ うす おとな な
れることが度々あります。年齢が上がるにつれてその驚きは薄れ、大人になるとすっかり慣れっこになってし

まうのかもかもしれません。いま なや わたし とき せかい おどろ
まうのかもかもしれません。今は、ウィルスに悩まされている私たちですが、そんな時でも、この世界はやはり驚

きと感動に満ち溢れているのではないのでしょうか。どうぞ日々の生活の中で小さな「Sense of Wonder」に

て あ い よろこ
出会い、そこから生きる喜びをいただくことができますように。

